

年齢の引き上げは反対

現状維持

七十歳から七十五歳への年齢引き上げはやめてほしい。体が動かなくなってしまうからもう一つもしようがないじゃないですか。今まで通り、体が自由に動き、外出できる七十歳からパスをいただきたい。

(年齢不詳 男性)

医療費の削減や消費の向上につながる

現状維持

七十歳になりパスをもらえるのを楽しみにしてきた。ぜひ、制度を継続してほしい。パスのおかげで高齢者は外出するようになり、それにより健康になり、医療費の削減や、消費の向上につながっていると思う。経費はほかの部分で削減して生み出してほしい。

(南区・六十代 男性)

生活が苦しいため継続を

現状維持

大通公園に散歩に行くのが唯一の楽しみです。わずかな年金ではそぼそと暮らしているの、交通費が今より負担になると生活が苦しくなり、どこへも出掛けられなくなります。現行の制度のまま続けてください。(南区・七十代 女性)



敬老パス

私はこう考える

7月18日以降に

市民の皆さんから実際に寄せられたご意見を紹介します。

年齢の引き上げ

見直して存続

最近、七十歳を越えても元気に活動している人がいたり、「若い人に申し訳ない」と言ってパスを使っていない友人もいたりします。パスを利用してできる年齢を七十歳から七十五歳へ引き上げてはどうでしょうか。

(六十代 女性)

手数料を払う

見直して存続

三年前に道南から札幌に転居してから敬老パスを利用しており、大変感謝しています。しかし、財政的に続けることが大変であれば、交付時に一定の手数料を支払うのはいかがでしょうか。これだけ利用させてもらっているのだから、少しぐらいの負担はしますよ。

(南区・佐藤静枝さん(八二))

収入に応じた負担を

見直して存続

七十歳を過ぎても、元気に働いている人や、十分な年金を受け取っている人がいる。なにも全員が無料であることはなく、収入がある人にはある程度の負担をさせてもいいと思う。でも、乗車のたびに券を買ったり、整理券を取ったりするような手間が増えるのはやめてほしい。

(北区・七十代 男性)

タクシーなど交通機関の拡充を

見直して存続

足腰が弱い公共交通機関を利用してできない高齢の人に対しては、パスではなく、タクシーチケットを渡すなどの方法を考えるべきだ。

(年齢不詳 男性)